

かすみがうら市議会議員みやじま謙活動報告

つばさ通信

第8号

10年後、20年後を見据え **待たなし!** 限界集落対策に本腰を!

安心して住み続けられる街づくり

平成28年第四回かすみがうら市議会定例会は、12月22日に終了しました。私は一般質問で、高齢化と人口減少が進む集落の将来について質問をし、一刻も早く対策に取り組むよう提言しました。10年後、20年後に、私たちの集落に安心して住み続けられるよう、今から本腰を入れて備えるべきだと思っております。

迫る、限界集落化

自分の暮らす集落や地域を見渡して、高齢化を実感している方は多いと思います。以前と比べ、若い人の姿を見かけない、寄り合いが減った、お祭りがなくなった、人の交流が少なくなった、ほとんど後継者がいない・・・そんな感想をお持ちではないでしょうか？「はて、この先、この集落は大丈夫か」漠然とした不安を抱

えつつ、具体的な対策のないまま毎日過ぎていくのが現状だと思っています。

「限界集落」という言葉があります。これは、「65歳以上の高齢者が集落の半数を超え、独居老人世帯が増加したために、社会的共同生活の維持が困難な状態に置かれている集落」のことを指します。

かすみがうら市の高齢化率（65歳以上の割合）は平成28年11月現在で約28%。霞ヶ浦地区約34・34%、千代田地区24・33%。市内で65歳以上の数が半数を超える地域（大字）はまだありませんが、40%を超える地域は存在します。恐らく10年以内には、相当数の地域が限界集落化する可能性があります。

住民の多くが独居で、しかも交通弱者となった場合、日常の買い物はどうなるのか、医療や介護の手は届くのか。空家や耕作放棄地が荒

今すぐ、対策に着手を

地方創生が叫ばれる今、夢のある将来像を描くことも大切ですが、その一方で、現実を見据えた具体的な高齢化対策、限界集落対策をきっちりと行って、安心して住み続けられる街づくりを進めていく必要があります。

一例を挙げれば組織体制の構築です。現在は、交通は市長公室、介護や医療は保険福祉部、生きがいづくりは生涯学習課、年金などの手続は市民部が担当しています。

しかし集落の高齢化問題、過疎地域の高齢者の生活支援は、総合的な窓口が必要で、集落の奥の奥まで入り込んだ、職員のきめ細やかな対応が必須です。荒廃してからは遅いのです。今すぐ取り掛かるべきでしょう。

働く女性の家 勤労青少年ホーム 有料化へ

公共施設使用料
改定議案可決

12月議会で公共施設の使用料改定の議案が可決されました。これは、千代田・霞ヶ浦両地区の料金の不均衡を是正し、受益者負担の原則を進めるもので、利用料が上がる施設も下がる施設もあり、また、働く女性の家や勤労青少年ホームなどの無料施設は有料化となるものです。4月1日から実施されます。

当初この改定案に対して、利用者から反対意見が多く寄せられ、議会にも値上げ反対の請願書が提出されたことは、皆さんご存知のとおりです。

これを受け市では、市が定める条件を満たせば、これまでの料金（無料含む）と同等で使用できる減免規定を設け、議案提出となりました。

しかし、この減免を受けるには、団体規約、会員名簿、活動実績書、会計決算書などの提出が必要となり、月1回以上の活動も条件で、特に高齢者グループにはハードルが高い内容です。さらに言えば、こうしたグループに参加していない人は、減免の対象になりません。憲法の保障する「集会の自由」の確保や公平性の観点から、問題がありそうです。

今後は、手続きをできるだけ簡素化すること、対象者の枠を広げることなどを働きかけていきたいと思っております。

千代田と出島は鳥の両翼 心合わせて羽ばたこう!

『つばさ通信』の紙名は、かすみがうら市が鳥の翼の形をしていることに由来しています。翼に偏りがあっては飛べません。千代田と出島の両地域が心ひとつに、全市一丸となって大空を羽ばたいてこそ、明るい未来が切り拓かれていくと確信するのです。



集中豪雨などでの道路冠水問題 定期チェックで未然対策を

豪雨ごとに道路冠水

一昨年9月に発生した関東・東北豪雨は、本県に大きな被害をもたらしましたが、これに限らず近年は、台風や集中豪雨が頻発しており、そのたびに道路の冠水被害が発生しています。人口密集地域に被害が多く、たびたび床下浸水するために、常に土嚢を積み上げている住宅も見られます。

日頃のメンテナンスの問題

現在市では、逆西地区の雨水排水状況調査に着手しています。この結果を受けて、逆西地区の雨水計画を抜本的に見直す予定でいるとのことですから、ここ数年のうちには、大きな改善がみられることが期待されます。

地方創生は足元から

私が市に現状を確認したところ、現在では定期的な清掃やチェックなどは行っていないとのこと。市民からの通報ごとにU字溝清掃を行って不具合を解消しているとのことですが、「なかなか来てくれない」との市民の声も聞かれます。

私は一般質問でこの問題について、

「U字溝清掃を大規模に行い、その後は定期的にチェックできるように体制を整えるべき」と提言しました。

まずは市内のU字溝の詰まりを調査・解消し、その後は、例えば市内一斉清掃の日に、区長さんに地域内のU字溝チェックを行っていただき、その報告を上げてもらうのです。

この仕組みを定期的稼働させれば、冠水ごとに対応に追われることは減り、市民の足元も安心です。肝心なことは、苦情が来てから対応するのではなく、苦情が来ないように対策を打つことです。

「地方創生は足元から」。企業誘致や観光振興も大切ですが、生活基盤の充実こそ、優先すべきだと思っております。

霞ヶ浦を活用した水辺レジャーの充実を

日本第二の広さを誇る霞ヶ浦湖畔に建てられた歩崎の交流センター。しかしこの地域に、水辺のレジャーを楽しむ環境は整っていません。昔は、湖水浴も盛んに行われた地域です。今一度、湖畔にある地域性を最大限に活かして、水辺レジャー

の環境整備をすべきではないでしょうか。ドなどの遊び場を設置することも考えら交流センター建設の計画当初には、棧橋の設置が組み込まれ、湖からの玄関口となる予定でしたが、漁業者との調整がつかずに、見送られた経緯があります。

今一度交渉を再開し、浮き桟橋を設置し、観光船の寄港を実現させたり、ヨット、カヌー、スタンドアップ・パドルボー

また、小さくても良いので一定の水域を区切り、民間企業とタイアップして水質浄化を行い、そこを遊泳エリアとすれば、夏場は大いに賑わうことでしょう。水辺の個性を活かし、ファミリィが一日楽しめる名所づくりをしたいものです。

霞ヶ浦南小 プール問題に進展

昨年6月に使用が開

始された霞ヶ浦南小

学校のプールの水が

冷たすぎる問題で、

保護者を中心に署名

運動が起こり、12月

議会に請願書が提出

されました。プールの温度環境を早急に改善してほしいという内容です。

こと、子どもたちの健康に直結する問題ですから、議会で

も全会一致で採択されました。

来年度の授業開始

までに、実際に水温

を上げる対策を講じ、

安心して授業が受けられる環境を整えてもらいたいものです。

明日への思い

新年、明けましておめでとございます。皆さんは良いお正月を過ごせたでしょうか。

私は、毎年1月3日の恒例行事となった郷土資料館（今年から歴史博物館になりました）でのお城市に、今年も参加させていただきました。

お城市は、市内の若者が中心となって行う「和」をテーマにした街おこしイベントで、年々来場者が増えているのです。私は「けん玉広場」で参加。

これはまさに「市民による地方創生」です。草の根の力を、これからも伸ばしていきたいですね。



ブログ みやじま謙の「創ろう！かすみがうら新時代」好評発信中！

http://blog.livedoor.jp/ken_miyajima/